

幾代会観察会(2022年11月)のまとめ



- 日時； 11月6日(日)
- 集合場所： 青梅線 福生駅 改札を出たところ
- 集合時間： 10時00分
- 観察場所： 福生加美上水公園と長徳寺

●ポイント : イチヨウの黄葉

●ルート : 福生駅～福生神明社(クスノキ)～田村家穀箱～福生加美上水公園(クスギ・キンラン)～長徳寺(イチヨウ・イブキ)～田村酒造場(ケヤキ・サルスベリ・ザクロ)～柳山公園(ケヤキ・お昼)～多摩川中央公園(ソメイヨシノ)～金堀公園(ユリノキ・ムクロジ)～中福生公園(メタセコイア・カツラ)～清巖院(カリン・ツクバネガシ・ムクロジ)～福生駅

●参加者 : 土方さん、須崎さん、羽深さん、石川さん、岡さん、太田さんと越前の

7名。下見：10月20日(木)3名。

◆感想 参加者からの一言

羽深さん：紅葉はチョット早かった。聞いても忘れるが天気が良かった。

太田さん；ベビーマラカスやフウセントウワタなどのユニークな植物が面白かった。

天気が良くて気持ち良かった。

石川さん；お天気が良く、始まりの紅葉が良かった。

花もゆっくりと説明が聞けて良かった。

土方さん；久しぶりに参加できて良かった。

寺院や酒造や巨木、清巖院の説明が良かった。

岡さん : 先月は羽村、今月は福生の公園を巡ったが市によって違って面白い。

何時もは車で通過するが歩くと違ったことが発見できて良い。

須崎さん ; お寺には巨木が有るが50年、100年先まで残れば良い。

福生の町がこんなに良いとは思わなかった。

◆ 11月の植物観察会のポイント2点（クスノキ）

●クスノキの自己剪定について



樹木が枝を落とす目的は、弱った枝を落とすことにあります。

神明社で一緒に見たクスノキはその良い例で樹幹の下に直径1cぐらいの多くの枝が落ちていました。

ある枝が生き残れるかどうかは、枝に付いている葉の光合成による稼ぎが、葉や枝の呼吸による消費を上回っているかどうかにかかっています。

植物は、赤字の枝を他の黒字の枝が助けるという事をしないので、赤字の枝は落とされます。

これは自己剪定と呼ばれ、クスノキがすっきりとしているのは自己剪定のお陰です。

台風などで折られた訳ではないので、落ちた枝の基部は膨らんで保護され病原菌が入らないように成っています。

自己剪定する樹木は他にもエノキ、クヌギ、桜、スギなどで見られます。

自ら動けない植物が生き伸びていく、究極の素晴らしい知恵です。

●クスノキが巨樹になれる理由

1. 長寿であること。
2. 福生の神明社のように神との関わりがある樹木なので、神社林等に植えられ保護された。

3. クスノキの持つ香りが、他の植物の発芽や成長を抑える働きを持っている。

クスノキから樟脳が発散され、地中に蓄積されてアレロパシーの働きをします。

アレロパシーとは植物が放出する化学物質が、ほかの植物や虫に対して殺菌や成長・発芽の抑制、忌避作用などにより阻害的に作用したり、生長の促進など共栄的に作用したりするなど、よくも悪くも何らかの作用をもたらすことをいいます。

◆散策路の植物

11月の観察会は福生市の多摩川沿いの公園をぐるりクルリと一回りです。

久しぶりに参加出来た笑顔の土方さんも含め参加者7名が福生駅の西側に鎮座する神明社へ向かいました。絶好のハイキング日和で全員がニコニコ。

人家のキンモクセイを見て「今年はキンモクセイが二回も咲きました」

「そうそうラジオで言ってた」皆さん、お花の情報は詳しいですね。

新奥多摩街道を横切るとクスノキのご神木が有る福生神明社。

クスノキの自己剪定（ポイント参照）を説明。

又、葉の三行脈の根もとにはチョット膨らんだダニ室が有ります。

小さな葉にもイロイロなものが生きていますが、よ〜〜く観察しないとわかり



田村家穀箱

ません。

クスノキには植物を食べるフシダニ
やフシダニを食べるナガヒシダニや
カブリダニも生息しています。

次に田村家の穀箱を見学していたら
上品そ〜〜なご主人が顔を出し、丁寧
な説明を受けました。

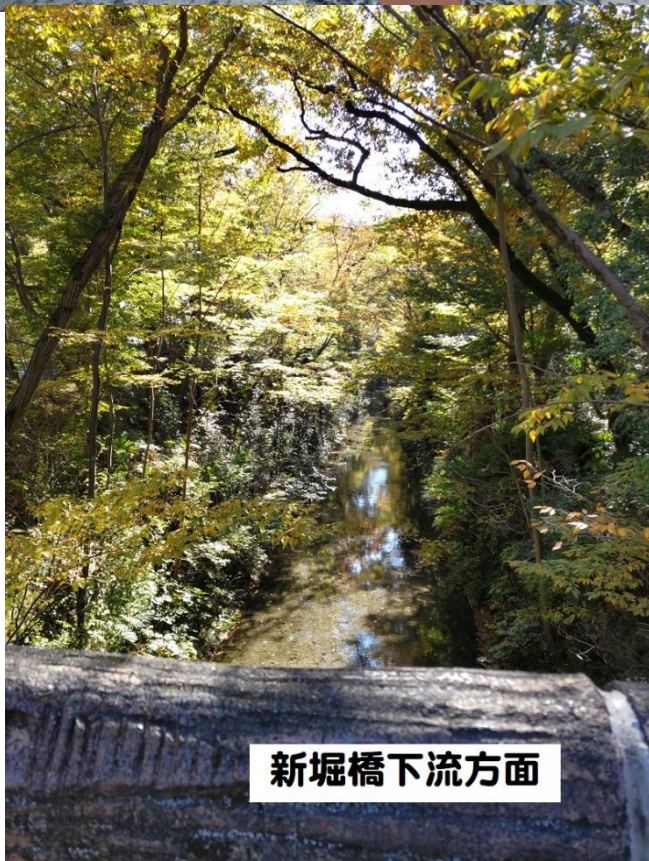
木材は腐らないようにクリの木を使
用し、保管した穀物が盗まれないよう
穀箱を開けるには仕掛けが有り、又、
内部には梵字が書かれていました。

ふ〜〜ん、素晴らしい。

全員で丁寧にお礼を言い、山車と神輿
が外に飾られたわかぎり会館でトイ
レ休憩と水分補給。ホッ。

玉川上水を福生10景に指定されて
いる新堀橋で渡りました。

上流も下流も紅葉し始めた雑木が覆



新堀橋下流方面



長徳寺庭園

いつくし、心が和みます。

新堀橋を渡ると武蔵野の面影が残る加美上水公園。

須崎さんからベビードーナツの嬉しい差し入れ。

食べた感がありますね。

足元にはコウヤボウキが群落をな

し、目の高さにはアメシスト色の紫式部の実。

踏まれないように割り竹で囲いをして何十株ものキンランが保護されていました。来年の5月、開花が楽しみです。



田村酒造場庭園

加藤家の樹高18mのヒマラヤスギを観察し、玉川上水沿いをワイワイおしゃべりしながら歩きます。

長徳寺では幹まわりが5mに及ぶイチョウの巨樹。

樹高24mの枝先を見上げれば真っ青な秋！

本堂裏には錦鯉が泳ぐ立派な庭園。

続いて白壁の土蔵が綺麗な田村酒造場のオオ



多摩川中央公園

ケヤキや刈り込まれた芝生が素晴らしい庭園をナント無料で拝観。

再び多摩川が臨める柳山公園まで歩を進めると、太田さんから「お腹がすいた～～」木陰のベンチで嬉しいランチタイムです。「う～～ん食べた食べた」

羽深さんから「武藤さんはどうした」の心配の声。柳山公園には幹回が2 m 以上も有るような立派なケヤキが群生。



ユリノキ

多摩川の左岸を一路、東に進むと視界が一気に開け明るい多摩川中央公園。

ボランティアで植えたヒマワリとコスモスのお持ち帰りが出来ました。

一緒にアレコレ夢中で摘み取りです。

ハサミやお持ち帰りの袋まで準備しており、至れり尽くせりです。

これから来年のチューリップの球根を花壇に植えるそうです。



フウセントウワタ

続いて田んぼの歴史を記した記念碑の有る金堀公園。

別名半纏木と言われるユリノキは午後の陽をいっぱい浴び、見てくださいますわんばかりに全ての葉が黄金に輝いています。

羽根つきに使われるムクロジの実を拾ってサポニンや蓋の付いた実の形の説明。

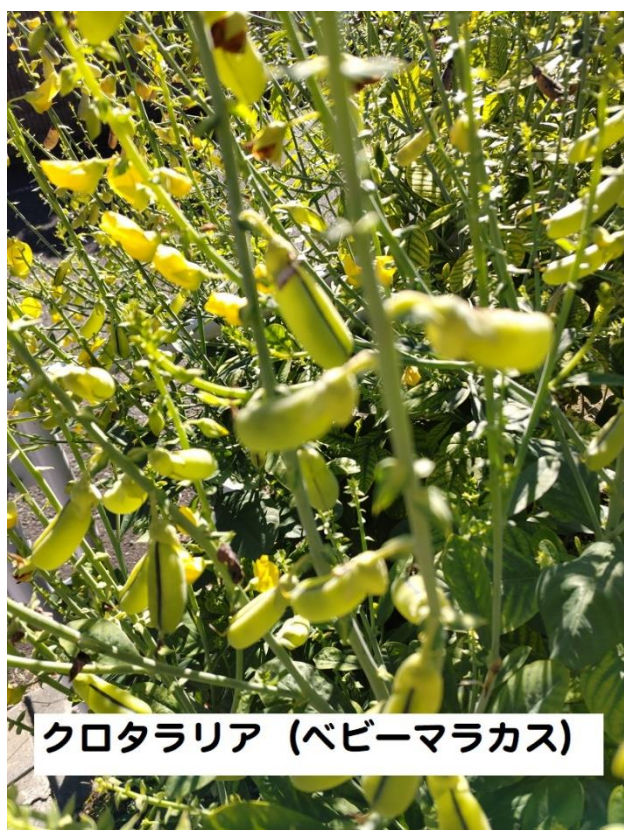
無患子と書き縁起木として神社等で保存され巨樹も多い固有種。

中福生公園へ向かう人道では形が面白いので生け花に使われるフウセントウワタ。

「どうしてこの花からこんな実になるか不思議」と岡さん。

「どんな植物だって花から実への変化なんて分かるものは一つも有りません」と私。

日々刻々と変化する植物は偉大です。



クロタラリア (ベビーマラカス)



サヤを振るとカシャカシャと可愛い音がする、ベビーマラカス。

茶色のサヤを振って、皆で童心に戻りました。「面白いわね」と石川さん。

2 c ぐらいのさやに色を付ければ、正に小さなマラカスです。

正式名はクロタラリアでサツマイモ線虫を抑制する緑肥植物です。

農薬で駆除し全滅させるのではなく自然の力で制御出来ればと思います。

続いて最後の観察地、臨濟宗の清岩院。

お目当てのツクバネガシは何処かな〜と境内を探します。

見つからないので住職に伺うと

「えっムクロジではないですか？」と驚かれた様子。

30年前に出版された「福生の銘木」の本を探しに行き、写真を見て納得。

幼稚園の脇にこんもり茂った珍しいツクバネガシを発見。

良く見かけるアラカシの葉との違いを実物で観察できました。

ツクバネガシは10 c 前後の披針形の葉で先端にのみ鋸歯が有ります。

観察会で見たのは初めてです。



トテモ気さくなおっしょうさんで「教えて貰えて良かった」とニコリ。

色々な方に訪ねてもらうのが本当に嬉しそうでした。

そして記念撮影をお願いしたら快く引き受けてくださいました。

帰りはハナミズキが真っ赤に紅葉する道を一路、福生駅へ。

あちらこちらで人との楽しいふれあいが有り、コスモスやヒマワリのお土産付きの満足できた一日が終わりです。

久しぶりの土方さんも含め来月も皆さんの参加を待っています。(越前記)